



最初にお読みください

CentreCOM® 8948XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8948XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。このリリースノートは、取扱説明書（J613-M0021-10 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M0021-12 Rev.F）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。最初によくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.7.5-06

2 本バージョンで追加された機能

ソフトウェアバージョン **2.7.5-03** から **2.7.5-06** へのバージョンアップにおいて、以下の機能が追加されました。各機能の詳細については、「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7」（Rev.F）をご覧ください。

2.1 EAP-TTLS、EAP-PEAP のサポート

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

802.1X Authenticator ポートにおいて、認証方式 EAP-TTLS と EAP-PEAP に対応しました（EAP-TTLS、EAP-PEAP を使用する Supplicant を認証できるようになりました）。なお、本機能に関する設定項目はありません（設定は不要です）。

2.2 DHCP リレーエージェント情報オプション

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DHCP/BOOTP リレー」

DHCP/BOOTP リレー機能に、リレーエージェント情報オプション（オプションコード 82）の付加・検査・削除を行う機能が追加されました。本機能を有効にすると、クライアントからの DHCP/BOOTP パケットを転送するときにリレーエージェント情報オプションを挿入し、サーバーからの戻りパケットをクライアントに転送するときに同オプションを削除するようになります。機能の有効化・無効化は ENABLE/DISABLE BOOTP RELAY OPTION82 コマンドで、動作設定は SET BOOTP RELAY OPTION82、SET BOOTP RELAY OPTION82 PORT コマンドで行います。

2.3 PIM6-SM

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」 / 「PIM」

IPv6 用のマルチキャスト経路制御プロトコルとして PIM-SM（Protocol Independent Multicast - Sparse Mode）に対応しました。アドレス体系が異なることと、モジュール名が PIM6 であることを除けば、IPv4 用の PIM-SM とほぼ同じ要領で設定が可能です（本製品では、IPv4 用の PIM モジュールと区別するため、IPv6 用の PIM モジュールを PIM6 と呼んでいます）。ご使用には IPv6 アクセラレーターボード AT-ACC01（および拡張メインメモリー AT-SD256A-001）が必要です。なお、IPv6 用の PIM-DM（PIM6-DM）は現在未サポートです。

3 本バージョンで仕様変更された機能

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 から 2.7.5-06 へのバージョンアップにおいて、以下の機能が仕様変更されました。

3.1 ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能の併用

 [参照](#) 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

 [参照](#) 「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」

 [参照](#) 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」

ポートランキングと IP マルチキャスト関連機能の併用が可能になりました。

3.2 スイッチポートの VLAN タグ設定と BPDU

 [参照](#) 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

 [参照](#) 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「スパンニングツリープロトコル」

スパンニングツリープロトコル（STP）とタグ VLAN の併用時、スイッチポートのタグ設定に関わらず、BPDU にはタグを付加しないよう仕様変更しました（オーバーラップ STP の場合は除く）。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン 2.7.5-03 から 2.7.5-06 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 SNMP において、ifInErrors（MIB-II）の値が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.2 EDIT コマンドなどで設定ファイルを編集した場合、速度を固定に設定したポートでも MDI/MDI-X 自動切替が有効になることがありましたが、これを修正しました。
- 4.3 ポートセキュリティの設定後に RESET SWITCH コマンドを実行すると、ポートのロックが解除されていましたが、これを修正しました。
- 4.4 ポートセキュリティの設定後に LEARN パラメーターの値を学習済み MAC アドレス数よりも小さい値に変更した場合、学習済み MAC アドレスが削除されず、また、学習済み MAC アドレス数が制限値に達してもポートのロックがかかりませんでした。これを修正しました。
- 4.5 スイッチポートをプロトコル VLAN に割り当てるとき、プロトコル番号の異なる複数のプロトコルが同一のものと認識され、どちらか一方しか設定できないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 スパンニングツリープロトコル（STP）使用時、タグ付きポートでタグなしの BPDU を受信できないため、ループが起こることがありましたが、これを修正しました。

- 4.7 スパニングツリープロトコル (Rapid モード) を使用しているとき、SHOW STP COUNTER で表示される TCN BPDU の値がカウントされませんでした。これを修正しました。
- 4.8 スパニングツリープロトコル (STP) 使用時、トランクポートの STP 設定を無効にすると、トランクポート経由の通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 SHOW CLASSIFIER コマンドにおいて、L4SMASK、L4DMASK パラメーターのデフォルト値が FFFF ではなく ANY と表示されていましたが、これを修正しました。
- 4.10 CREATE CLASSIFIER コマンドにおいて、L4SMASK=0000 (または L4DMASK=0000) と L4SMASK=ANY (または L4DMASK= ANY) が異なる条件であると認識され (0000 と ANY は本来同じ意味)、同一条件のクラシファイアを複数作成できていましたが、これを修正しました。
- 4.11 「ETHFORMAT=SNAP-UNTAGGED PROTOCOL=IP」を条件とするクラシファイアを作成し、設定ファイルを保存して再起動すると、このクラシファイアを利用するハードウェアパケットフィルタが正しく動作しませんでした。これを修正しました。
- 4.12 ECMP (同一コストの経路が複数存在する) 環境において、ネクストホップの ARP エントリが削除されると該当経路が使用されなくなっていました。これを修正しました。
- 4.13 ADD OSPF STUB または ADD OSPF HOST コマンドがすでに設定されている状態で同一コマンドを再入力すると、OSPF Hello パケットの送受信が行われなくなりましたが、これを修正しました。
- 4.14 ASBR の OSPF インターフェイスに設定されているネットマスク値と ADD OSPF RANGE コマンドの MASK パラメーターで指定するネットマスク値が異なっていると、ABR から受信した ASBR サマリー LSA の情報が経路表に反映されない場合があります。これを修正しました。
- 4.15 ルートマップなどによって複数の AS_PATH セグメントが先頭に追加された UPDATE を受信したとき、その経路を他 AS のピアに UPDATE する時の AS_PATH 属性が正しくありませんでしたが、これを修正しました。
- 4.16 ルートフラップダンピングにおいて、経路の属性が変更されても、経路がフラップしたと認識しませんでした。これを修正しました。
- 4.17 BGP-4 使用時、IP 経路表に登録されているブラックホール経路がより優先度の高い通常経路に置き換えられても、後者が BGP の経路表にインポートされませんでした。これを修正しました。
- 4.18 ルートリフレクションのクライアントピア (CP) として動作しているとき、ルートリフレクター (RR) からの UPDATE メッセージに含まれるクラスター ID が変更されるとリポートすることがありましたが、これを修正しました。

- 4.19 BGP-4 において、NOTIFICATION メッセージの送信後に TCP の再接続を行いませんでしたが、これを修正しました。
- 4.20 経路制御フィルターにおいて、インターフェース経路と同じプレフィックスを持つ OSPF 経路を正しくフィルタリングできないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.21 UDP ブロードキャストパケットの転送機能を有効にした場合、パケットの宛先 MAC アドレスに本製品自身の MAC アドレスをセットするようなディレクティブブロードキャストパケットを転送するよう修正しました。
- 4.22 IPv6 アクセラレーターボードを搭載していても、ワイヤーレートでの IPv6 ルーティングができませんでした。これを修正しました。
- 4.23 RIPng のループ構成でポイズンリバースが動作しませんでした。これを修正しました。
- 4.24 RIPng 有効時にルーティングループが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 4.25 RIPng において、メトリック 16（無効）の経路を使用していましたが、これを修正しました。
- 4.26 DVMRP 使用時、マルチキャストグループ 239.255.255.250 宛での IP パケットがルーティングされませんでした。これを修正しました。
- 4.27 VLAN 内に All Group 所属ポートが 2 つある場合、どちらかのポートがタイムアウトすると、マルチキャストデータが VLAN 内にフラッディングされていましたが、これを修正しました。
- 4.28 CREATE VRRP コマンドで ADOPTVRIP パラメーターを ON に設定している場合に、マスタールーターからバーチャルルーター宛での通信ができませんでした。これを修正しました。
- 4.29 VRRP のマスタールーターとして動作しているとき、Sender IP にバーチャル IP アドレスがセットされている Gratuitous ARP パケットを受信すると ARP キャッシュに登録することがありましたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

ソフトウェアバージョン **2.7.5-06** には、以下の制限事項があります。

5.1 コンパクトフラッシュ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」

コンパクトフラッシュ上のディレクトリー名が長い場合、SHOW CFLASH コマンドが正常に動作しないことがあります。フルパス名が 200 文字を超えないようにディレクトリー名を設定してください。

5.2 NAS-IP-Address と始点 IP アドレス

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「認証サーバー」

複数の IP インターフェース (IP アドレス) を設定している場合、RADIUS Access-Request パケットの始点 IP アドレスと NAS-IP-Address の値が異なることがあります。両者を一致させたい場合は、RADIUS サーバーの指定時 (ADD RADIUS SERVER コマンドの実行時) に、LOCAL パラメーターでローカル IP インターフェースを指定してください。

5.3 SET LOADER、LOAD コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「アップロード・ダウンロード」

- SET LOADER コマンドで HTTPPROXY パラメーターと SERVER パラメーターを同時に指定した場合、SERVER パラメーターの設定が保持されず、以後 LOAD コマンドが正しく動作しないことがあります。HTTP プロキシを経由でファイルをダウンロードするときは、LOAD コマンドで必ず SERVER パラメーターを指定してください。
- LOAD コマンド (LOAD METHOD=HTTP) は、応答コード 404 (Not Found) を返さない Web サーバーには対応していません。応答コード 404 を返さない Web サーバーに対して LOAD コマンドを実行すると、FILE パラメーターで指定したファイルが該当サーバー上になかった場合に本製品がリポートするのでご注意ください。

5.4 ログ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」

- CREATE LOG OUTPUT コマンドの QUEUEONLY、MAXQUEUESEVERITY パラメーターが機能しません。
- SET LOG OUTPUT コマンドで PERMANENT ログの設定を変更すると、既存のログが削除されます。
- PERMANENT ログの最大格納メッセージ数はデフォルト設定では 20 ですが、新たに作り直すと最大格納メッセージ数が 50 に変わります。

5.5 SNMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「SNMP」

- topologyChange トラップと newRoot トラップが送信されません
- プライベート MIB の instRelMajor、instRelMinor、instRelInterim の値を取得できません。
- プライベート MIB の fanAndPsPsuPresent において、電源ユニットが装着されていないという状態を正しく表現できません。Bay 1 (PSU1) 側に電源ユニットが装着されていない場合、本製品は値を返しません。
- ポートランキングを使用しているとき、SHOW INTERFACE コマンドに COUNTERS パラメーターを指定して実行すると、トランクグループのカウンター値が

0のまま増加しません。SHOW INTERFACE コマンドの INTERFACE パラメーターにトランクグループ名を指定して実行すると、正しいカウンター値が表示されるようになります。

- プライベート MIB の atrMacBasedAuthPaeState において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ authenticated(5) になるべき MIB の値が、authenticating(6) になります。
 - ・ held(7) になるべき MIB の値が、aborting(6) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=5 CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(8) または forceUnauth(9) にならず、initialise(1) になりません。
- プライベート MIB の atrMacBasedAuthControlledPortStatus において、本来と異なる値を持つものがあります。
 - ・ 認証を行っていないにもかかわらず MIB の値が unauthorised(2) にならず、authorised(1) になります。
 - ・ SET PORTAUTH PORT コマンドで「SET PORTAUTH=MACBASED PORT=xx CONTROL=AUTHORISED;UNAUTHORISED」を設定しても、MIB の値が forceAuth(10) または forceUnauth(12) にならず、never(1) になりません。
- LC コネクターを持つ SFP ポートの ifJackType (ポート形状を示す変数。MAU MIB) が正しくありません (「fiberSC」となります)。

5.6 NTP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」

SET NTP UTCOFFSET=NONE を実行した後、設定を保存して再起動すると、起動時に「Invalid zone or time for UTC offset.」というエラーメッセージが表示されます。タイムゾーンをデフォルト値に戻す場合は、SET NTP UTCOFFSET=UTC (または GMT) のように指定してください。

5.7 Telnet セッション数の制限

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

SET TELNET コマンドの MAXSESSIONS パラメーター (同時に確立可能な Telnet セッション数) が正しく動作しません。実際には、指定した値 +2 として扱われます。たとえば、MAXSESSIONS=3 と設定した場合、MAXSESSIONS=5 として動作します。

5.8 TELNET コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」

TELNET コマンドの実行時に DNS サーバーへの問い合わせが行われた場合、DNS サーバーからの応答に IPv6 アドレスが含まれていると、TELNET コマンドが反応しなくなります。

5.9 ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

Telnet 経由とコンソールポート 経由と同時にログインしているときに、Telnet クライアント上で ENABLE SWITCH PORT AUTOMDI コマンドを実行すると、入力結果が Telnet クライアントの画面上に表示されず、コンソールターミナルの画面上に表示されます。

5.10 ポートトランキング

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」

- CREATE SWITCH TRUNK コマンドで複数のトランクグループを作成後、設定を保存して再起動すると、トランクグループの設定が作成時と異なる順序で読み込まれるため、表示上の順序が変更されます。なお、動作には問題ありません。
- トランクポートでタグ VLAN を使用している場合、本製品・対向機器ともにフローコントロールが有効な状態でトランクポートのケーブルを抜き差しすると、本製品が PAUSE フレームを送信することがあります。
- ポートトランキングとスパニングツリー（Rapid モード）を併用した場合、Topology Change が発生しても FDB をクリアしないため、通信ができなくなります。この現象は、スパニングツリーが Rapid モードの場合のみ発生します。

5.11 LACP (IEEE 802.3ad)

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「LACP (IEEE 802.3ad)」

- LACP によって自動生成されたトランクグループのメンバーポートに対して CREATE SWITCH TRUNK コマンドを実行すると、通信ができなくなります。
- LACP において、一部のポートで通常とは異なるサイズのパケットが送出されることがあります。

5.12 タグ VLAN

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」

すべてのポートをメンバーとするタグ VLAN を大量に作成し、各 VLAN に IP アドレスを割り当てている場合、いずれかのポートがリンクダウンすると一時的にコンソールの反応が悪くなります。

5.13 フォワーディングデータベース

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「フォワーディングデータベース」

ルーティングパケットと本体（CPU）宛てのパケットに対して、フォワーディングデータベース（FDB）のスタティックエントリが機能しません。

5.14 QoS

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

- UDPSPORT を条件に含むクラシファイアを 100 個以上使っている QoS ポリシーを全ポートに適用するとリポートすることがあります。これを回避するには、最初に空の QoS ポリシーをポートに適用し、その後 QoS ポリシーにトラフィッククラスやフローグループ、クラシファイアを割り当ててください。
- MAXBURSTSIZE と MINBURSTSIZE を 0 に設定した場合、メータリングが正しく動作しません。

5.15 ハードウェアパケットフィルター

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- ハードウェアパケットフィルターとダブルタグ VLAN (Nested VLAN) の併用時、カスタマーポートで受信したパケットに対して、INNERVLANID、INNERVLANPRIORITY、INNERTPID パラメーターが機能しません (DISCARD を指定しても破棄されません)。
- MLD Snooping を無効にしても、本体インスタンスのルール領域が解放されません。

5.16 ポート認証

参照 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート認証」

- PIGGYBACK=TRUE の Authenticator ポートにおいて、ある Supplicant を認証した後、PIGGYBACK=FALSE に設定を変更しても、直接認証を受けていないホスト (PIGGYBACK で通信しているホスト) のエントリーが FDB から削除されないため、引き続き通信が許可されます。
- DISABLE PORTAUTH コマンドを実行しても、認証済み Supplicant のスイッチフィルターエントリーが削除されません。
- ENABLE/SET PORTAUTH PORT コマンドの SERVERTIMEOUT パラメーターが正しく動作しません。これは、SET RADIUS コマンドの TIMEOUT パラメーターと RETRANSMITCOUNT パラメーターの設定が優先されているためです。SET RADIUS コマンドで TIMEOUT × (RETRANSMITCOUNT + 1) の値を SERVERTIMEOUT より大きく設定した場合は、SERVERTIMEOUT の設定が正しく機能します。
- RADIUS サーバーによってダイナミック VLAN を割り当てられた Supplicant がリンクダウン、ログオフなどで存在しなくなった場合、プライベート MIB である AuthPreAuthVlan、AuthPostAuthVlan が不正な値を返します。
- RESET PORTAUTH PORT コマンドに SUPPLICANTMAC パラメーターを指定して実行すると、対象 Supplicant 情報ばかりではなく、ポート上のすべての Supplicant の MAC アドレスを FDB から削除します。
- ポートの 802.1X 認証機能をいったん無効にしてから再度有効にすると、Authenticator は Supplicant の MAC アドレスをゲスト VLAN 上で学習しません。

5.17 TRACE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

SET TRACE コマンドのパラメーターに有効範囲外の値を指定してもエラーにならないことがあります。

5.18 ICMP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

ICMP Host Unreachable メッセージの送信に時間がかかることがあります。

5.19 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC1 パラメーターに値を指定し、METRIC2 パラメーターには値を指定しない場合、METRIC2 パラメーターに省略時の 1 が設定されず、METRIC1 パラメーターで指定した値が設定されます。

5.20 SHOW IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

経路タグ値が大きい場合、SHOW IP ROUTE コマンドの表示において、Tag 欄の値が Metrics 欄の値と連結してしまい、1 つの大きな値のように表示されることがあります。

5.21 OSPF

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」

- OSPF インターフェースの IP アドレスを変更すると、その後 IP アドレスを元に戻しても OSPF の隣接関係が回復しません。
- SET OSPF コマンドで DEFROUTE=ON を指定した場合、IP の経路表にデフォルト経路がなくても、デフォルトルートの LSA を作成します。
- 仮想リンクが設定されている状態で、SET OSPF AREA コマンドの STUBAREA パラメーターでスタブエリアの設定を OFF から ON にすると、バックボーンエリアにまでデフォルトルートが通知されます。
- 16777214 より大きいメトリックを持つルートをルートテーブルに反映できません。
- 隣接ルーターとの通信状態が「Attempt」（静的設定された隣接ルーターとの通信を試行中）であっても OSPF Hello パケットを送信しません。
- 同一内容のタイプ 5 LSA またはタイプ 7 LSA を複数受信したとき、ルーター ID が最大の LSA だけでなく、すべての LSA の情報を受け入れます。
- ABR として動作しており、なおかつ、バックボーンエリアの経路を集約している場合、通過エリアに対するタイプ 3 LSA でもバックボーンエリアの経路を集約して通知します。

- バックアップ DR として動作している OSPF インターフェースのルーター優先度 (SET OSPF INTERFACE コマンドの PRIORITY パラメーター) を 0 に変更しても、該当インターフェースが非 DR / 非バックアップ DR に移行しません。
- 準スタブエリア (NSSA) の ASBR として動作している場合、タイプ 7 LSA の Forwarding Address を正しく選択できず、該当経路宛での通信ができなくなることがあります。
- ASBR として動作している場合、非 OSPF インターフェースの経路情報をタイプ 5 LSA で配布しますが、IP ルートフィルターを用いてこの経路情報を配布しないよう設定すると、LSAge=3600 のタイプ 5 LSA を 1 秒間隔で送信してしまい、結果的に OSPF の隣接関係を確立できなくなることがあります。ASBR 時、非 OSPF インターフェースの経路を IP ルートフィルターでフィルタリングしないでください。

5.22 BGP-4

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

- ルートフラップダンピング有効時、SHOW BGP DAMPING ROUTES コマンドの Prefix/Mask 欄に不正な値が表示されることがあります。
- プライベート AS フィルターを有効にすると、自身のプライベート AS 番号まで削除してしまいます。
- 自動ソフトリセットを有効にしても、SET BGP PEER コマンドの DEFAULTORIGINATE パラメーターの設定変更が自動的に反映されません。
- ブラックホール経路の追加・削除時、BGP の経路表が正しく更新されません。
- SET BGP PEER コマンドにおいて、「LOCAL=NONE」の指定がエラーになります。このような場合は、EDIT コマンドを用いて設定ファイルを直接編集してください。
- DISABLE BGP DEFAULTORIGINATE コマンドを実行しても、すでに通知していたデフォルト経路の取り消しをピアに通知しません。
- ADD IP ROUTEMAP コマンドの実行後にソフトリセットを実行しても、追加したルートマップが有効になりません。

5.23 名前解決

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「名前解決」

ADD IP DNS コマンドの INTERFACE パラメーターで、DNS サーバーアドレスを DHCP で動的に取得するよう設定していないにもかかわらず、DNS サーバーアドレスが動的に取得されます。

5.24 ARP

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「ARP」

- Gratuitous ARP パケットの受信時、受信インターフェースと異なるネットワークの IP アドレスであっても、そのアドレスを ARP キャッシュに登録します。
- ARP テーブルからスタティックエントリーを削除すると本製品から ARP Request が送信されますが、Reply を受信しても該当ホストのエントリーが ARP テーブルに登録されません。

5.25 IPv6

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」

- ENABLE IPV6 DEBUG コマンドで IPv6 デバッグを有効にすると、設定ファイルにデバッグの一部が反映されます。
- MLD Query パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの OutGroupMembQueries ではなく OutEchos がカウントアップします。
- ICMPv6 Time Exceeded パケットの送信時に ICMPv6 カウンターの InTimeExcds がカウントアップされます。

5.26 ルーター通知 (RA)

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「IPv6 インターフェース」

参照 「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」 / 「近隣探索」

- IPv6 において、インターフェースがダウンした場合、Lifetime フィールドが 0 のルーター通知 (RA) パケットが送信されません。
- SET IPV6 INTERFACE コマンドで PREFERRED と VALID の値を INFINITE に変更しても、ルーター通知 (RA) パケットに反映されません。これを反映させるには、コンフィグを保存して再起動を行ってください。
- SET IPV6 PREFIX コマンドの設定をした場合、コマンド入力直後は正しく機能しますが、CREATE CONFIG コマンドで設定を保存しても同コマンドが書き込まれません。これを回避するには、EDIT コマンドで直接設定ファイルに記入するか、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させるかしてください。
- ルーター通知 (RA) において、SET IPV6 PREFIX コマンドでパラメーターに ONLINK=NO を指定して実行すると、プレフィックス情報オプションの L フラグだけでなく、A フラグ (AUTONOMOUS パラメーター) もオフになってしまいます。
- ADD IPV6 PREFIX コマンドを、IPv6 インターフェースと同じ IPv6 アドレス / プレフィックス長を指定して実行した場合、コマンドが反映されません。これを回避するには、EDIT コマンドで直接設定ファイルに記入するか、再起動トリガーを使用して起動直後に同コマンドを実行させるかしてください。

5.27 DVMRP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「DVMRP」**

DVMRP インターフェースを削除し、再度追加した場合、該当インターフェース上の DVMRP 経路がホールドダウン状態のままとなります。

5.28 PIM-DM/PIM-SM

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「PIM」**

- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、Assert Timer 満了時にデータをフラッシングすることなく再 Assert するため、下流ルーターがマルチキャストデータを受信できなくなることがあります。このようなときは、SET PIM コマンドの PRUNEHOLDTIME パラメーターを 180 秒未満に設定してください（デフォルトは 210 秒）。
- (PIM-SM) PIM-SM 関連のログと SNMP トラップを有効にしても（SET PIM LOG コマンド）、PIM インターフェース削除時のログとトラップが生成されません。
- (PIM-DM/PIM-SM) PIM モジュール有効時、同一インターフェース上で 1000 グループ程度のマルチキャストを転送すると CPU 負荷が 100% になる、または本製品がリブートすることがあります。
- (PIM-SM) DR でないインターフェースにおいて、マルチキャストグループが登録されている状態で IGMP Report を受信すると、PIM Join メッセージを送信します。
- (PIM-DM) Assert が発生する環境において、下流ルーターとして動作している場合、Assert Winner でない上流ルーターに Graft メッセージを送信することがあります。なお、通信上の影響はありません。

5.29 IGMP

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP」**

- Last Member Query Interval タイマーの起動中に Report メッセージを受信しても、同タイマーが更新されず、Group-specific Membership Query を再送信してしまいます。
- 統計カウンター outQuery の値が正しくありません。

5.30 IGMP Snooping

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP マルチキャスト」 / 「IGMP Snooping」**

- SET IGMPSPNOOPING ROUTERMODE コマンドでパラメーターに NONE を指定しても、224.0.0.1 および 224.0.0.2 からのマルチキャストパケットを受信した場合には All Group を作成します。All Group を作成しない場合は、DISABLE IP IGMP ALLGROUP コマンドを使用してください。
- IP の設定がされていないと、Leave メッセージを受信したときに受信ポートをグループから削除します。

- Leave メッセージを受信しても統計カウンター inLeave がカウントアップされません。
- ポートランキングと IGMP Snooping の併用時、非マスターポートで Leave メッセージを受信した場合は、マルチキャストグループからトランクポートが削除されません。
〔「マスターポート」はトランクグループ内で最も番号の小さいポート、「非マスターポート」はそれ以外のポートを示します〕

5.31 PIM6-SM

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6 マルチキャスト」**

- 本製品が BSR として動作している場合、C-RP の情報がタイムアウトしても、該当 C-RP が担当していたマルチキャストグループの情報を保持し続けます。
- Assert メッセージの送信間隔が規格値の 180 秒ではなく 190 秒になっています。

5.32 VRRP

 **「コマンドリファレンス」 / 「VRRP」**

SET VRRP コマンドで ADOPTVRIP=ON に設定した場合、本製品から送信される ICMP Reply の始点アドレスが実インターフェースアドレスを使用するため、Windows XP ではタイムアウトが発生し、通信ができません。(Windows 2000 などの OS では問題なく通信できます。)

6 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書と「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7 (Rev.F)」の補足事項です。

6.1 HTTP サーバー (サポート対象外)

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「システム」**

本製品はデフォルトで HTTP サーバー (サポート対象外) が有効になっているため、IP 有効時は TCP ポート 80 番がオープンしています。セキュリティを重視する場合は、DISABLE HTTP SERVER コマンドを実行して、HTTP サーバーを無効にしてください。

6.2 コンパクトフラッシュ

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「記憶装置とファイルシステム」**

コンパクトフラッシュ (CF) 上のファイルを起動時設定ファイルに指定することはできません。

6.3 DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ログ」**

DESTINATION=ROUTER のログ出力先定義を使用するときは、ログの送信側と受信側で同一ファームウェア (ファイル名とバージョンが同じもの) を使用してください。それ以外の構成はサポート対象外とさせていただきますのでご注意ください。

6.4 NTP

 **「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「NTP」**

Windows XP 標準の NTP クライアントから NTP 要求を受信しても応答しないことがあります。これは Windows XP の仕様によるものです。

6.5 ユーザープライオリティー 6～7 のブロードキャスト転送レート

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

ユーザープライオリティー (802.1p) 6～7 を持つブロードキャストパケットの転送レートは約 50% です。

6.6 送信元アドレスがマルチキャストアドレスのフレーム

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」**

受信した Ethernet フレームの送信元アドレスがマルチキャストアドレスだった場合、このフレームは転送されずに破棄されます。

6.7 ポート帯域制限機能と重み付きラウンドロビンスケジューリングの併用について

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」**

送信ポートの帯域制限機能 (EGRESSLIMIT) と QoS の重み付きラウンドロビンスケジューリング (WRR) は併用できません。

6.8 ポートトランッキング

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ポート」**

ルーティング後トランクグループから送信される IP パケットの送出ポートは、ENABLE / DISABLE SWITCH HASH コマンドの設定とは関係なく、L3 ヘッダー情報にのみ基づいて決定されます。その他のパケットには、同コマンドの設定が適用されます。

6.9 マルチプル VLAN (Private VLAN)

 **「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「バーチャル LAN」**

マルチプル VLAN (Private VLAN) のプライベートポートでは、ARP パケットの処理が行えないため、DHCP、SNMP、Telnet、IP ルーティングなど、本製品との通信が必要な機能は使用できません。

6.10 MAC アドレス登録数

 **「取扱説明書」 143 ページ 「本製品の仕様」**

取扱説明書には、MAC アドレス登録数が「15K (最大)」と記載されていますが、正しくは「16K (最大)」です。

6.11 クラシファイアの割り当てについて

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「クラシファイア」

1つのクラシファイアをハードウェアパケットフィルターとポリシーベース QoS の両方に割り当てないでください。このような設定をすると、ハードウェアパケットフィルターに割り当てたクラシファイアしか機能しません。

6.12 QoS

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「QoS」

高速なポートの配下から低速なポートの配下に Ping を実行した場合、フラグメント化されたパケットをロスする場合があります。そのようなときは、次のコマンドを実行して、Tail-drop 時の最大キュー長を大きくしてください（デフォルトは 30Kbyte）。

```
SET QOS RED=1 STOP1=100k
```

6.13 ハードウェアパケットフィルター

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「スイッチング」 / 「ハードウェアパケットフィルター」

- CREATE CLASSIFIER コマンドで「IPPROTOCOL=IGMP」を条件に含めても、IGMP パケットをフィルタリングできません。
- ハードウェアパケットフィルターのアクションに SETL2QOS を指定すると、IP TOS 値が 0 に書き換えられます。

6.14 IP 統計情報

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品では、IP チェックサムエラーのパケットを受信しても、SHOW IP COUNTER コマンドの inHdrErrors カウンターがカウントされません。

6.15 ICMP メッセージ

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」

本製品は ICMP Redirect メッセージを送信しません。

6.16 ADD IP ROUTE コマンド

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御」

ADD IP ROUTE コマンドで METRIC を指定すると、METRIC 値は METRIC1 として設定されてしまいますが、動作に影響はありません。

6.17 BGP-4

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (BGP-4)」

ADD/SET BGP PEER コマンドの MAXPREFIX に OFF 以外の値を指定し、なおかつ、MAX-PREFIXACTION パラメーターに TERMINATE を指定している場合、該当ピアからの受信プレフィックス数が MAXPREFIX を超過すると BGP セッションを切断しますが、その後ただち

にセッションを再確立しようとするため、TCP SYN パケットを繰り返し送出することがあります。

6.18 DVMRP

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「DVMRP」](#)

本製品の DVMRP 実装は、Internet Draft の「Appendix C」（古い DVMRP 実装との相互運用性に関する項目）には対応していません。

6.19 PIM-DM/PIM-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IP マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
CREATE CLASS=1 MACDADDR=01-00-5e-00-00-0d
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS PRIORITY=7
```

6.20 PIM6-SM

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「IPv6 マルチキャスト」](#) / [「PIM」](#)

マルチキャストデータの通信負荷が高いと、PIM6 パケットを処理できず、マルチキャスト通信が途絶えることがあります。これを避けるには、次のようなハードウェアパケットフィルターを設定し、PIM6 パケットを優先的に処理させるようにしてください。

```
SET SWITCH CPUTXPRIO=7
SET SWITCH CPUTXQUEUE=7
CREATE CLASS=1 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-UNTAGGED PROT=86dd
CREATE CLASS=2 MACDADDR=33-33-00-00-00-0d ETHF=ETHII-TAGGED PROT=86DD
ADD SWITCH HWF CLASS=1 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
ADD SWITCH HWF CLASS=2 ACTION=SETL2QOS L2QOSQUEUE=7
```

6.21 VRRP とポート認証

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「VRRP」](#)

 [「コマンドリファレンス」](#) / [「スイッチング」](#) / [「ポート認証」](#)

VRRP とポート認証 (Authenticator) は併用できません。

7 未サポートコマンド (機能)

以下のコマンド (機能) はサポート対象外ですので、あらかじめご了承ください。

- 以下のキーワードを含む全コマンド
ENABLE、ADD、SET、SHOW などの後に [?] キーを押すと表示される機能別キーワードです。

APPLETALK、CLNS、DHCP6、FIREWALL、GARP、GRE、GUI、HTTP、IPSEC、IPX、ISAKMP、L2TP、LDAP、LOADBALANCER、LB、PKI、PPP、PPPOE、RSVP、SA、SSL、STAR、TACACS、TACPLUS、TEST、MSTP

○ 以下のコマンド (パラメーター)

COPY
DUMP
MODIFY
START/STOP/SET PKT
SHOW BUFFER [SCAN[=ADDRESS] [QUEUEPOINTERS]]
SHOW SYSTEM TEMPERATURE
LOAD [METHOD=LDAP] [ATTRIBUTE] [BASEOBJECT]

TRACE [ADDRONLY]
PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS] [SAPPLEADDRESS]
[OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
SET PING [IPXADDRESS] [SIPXADDRESS] [APPLEADDRESS]
[SAPPLEADDRESS] [OSIADDRESS] [SOSIADDRESS]
PURGE FILE TRANSLATIONTABLE={ALL|UPDATE}
PURGE PING TOTALLY

ENABLE/DISABLE/SHOW SWITCH ACCELERATOR DEBUG
SET/SHOW SWITCH SOCK
SHOW SWITCH TABLE
SHOW SWITCH SWTABLE
SET SWITCH PORT [JUMBO]
SET SWITCH PORT [SPEED={xxxMHAUTO|xxxMFAUTO}]
ENABLE/DISABLE SWITCH BIST
ADD VLAN PORT [UPLINK]

ADD/DELETE/SET/SHOW IP FILTER
ADD/SET IP ROUTE FILTER [POLICY=0..7]
ADD/DELETE/SET/SHOW/ENABLE/DISABLE IP EGP
ADD/DELETE/SHOW/ENABLE/DISABLE IP HELPER
ADD/SET/SHOW/DELETE IP SA
ADD/SET IP INTERFACE [GRATUITOUSARP] [VJC] [FILTER] [POLICYFILTER]
[PRIORITYFILTER] [MULTICAST]
CREATE/DESTROY/SHOW IP POOL
ENABLE/DISABLE IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP ROUTE [CACHE]
SHOW IP CACHE
SHOW IP CASSI
SHOW IP ROUTE TEMPLATE
SHOW IP ROUTE MULTICAST
SHOW IP POOL
SHOW IP FLOW
ENABLE/DISABLE IP FOFILTER
ENABLE/DISABLE IP MULTICASTSWITCHING
ENABLE/DISABLE IP SRCROUTE
ADD IP ROUTEMAP [MATCHTAG]

ADD IPV6 INTERFACE IPADDRESS={DHCP|DHCPTMP|PD} [APPINT] [FILTER]
[HINT] [KEY]

ADD IPV6 INTERFACE [PRIORITYFILTER]
SET IPV6 INTERFACE [FILTER] [PRIORITYFILTER]
ADD IPV6 FILTER [PRIORITY]
DELETE IPV6 FILTER
SHOW IPV6 FILTER
SET IPV6 PREFIX
SHOW IPV6 MULTICAST

ADD/SET/DELETE DVMRP DLC
ADD/SET/DELETE DVMRP INTERFACE [DLC]

ENABLE/DISABLE ENCO COMPSTATISTICS
SET ENCO SW
SHOW ENCO CHANNEL
SHOW ENCO COUNTER={DES;HMAC;JOBPROCESSING;PRED;STAC;USER;
UTIL}

ENABLE/DISABLE QOS DEBUG

ADD/SET PIM INTERFACE [SRCAPABLE] [DLC]
DELETE PIM INTERFACE [SRCAPABLE]
SHOW PIM [STATEREFRESH]
ADD/SET PIM BSRCANDIDATE [HASHMASKLENGTH]

ADD/SET PIM6 INTERFACE [MODE=DENSE] [SRCAPABLE]
SET PIM6 [SOURCEALIVETIME] [SRINTERVAL]
SHOW PIM6 [STATEREFRESH]

CREATE/DESTROY PPP [AUTHMODE] [BAPMODE] [CBMODE] [CBDELAY]
[COPY] [DEBUGMAXBYTES] [DESCRIPTION] [FRAGMENT]
[FRAGOVERHEAD] [LOGIN] [MAXLINKS] [MRU] [NULLFRAGTIMER]
[NUMBER] [TYPE]
ADD/DELETE PPP [AUTHENTICATION] [CBDELAY] [CBMODE] [CBNUMBER]
[CBOperation] [COMPALGORITHM] [COMPRESSION] [CONFIGURE]
[MODEM] [NUMBER] [PREDCHECK] [RESTART] [STACHECK] [TERMINATE]
[TYPE]
ADD/DELETE/SET PPP ACSERVICE
ADD/DELETE/SET PPP TEMPLATE
ENABLE/DISABLE PPP TEMPLATE
ADD/DELETE PPP MAXSESSIONS
ADD/DELETE PPP ACRADIUS
ADD/DELETE PPP VLAN
ENABLE/DISABLE PPP ACCESSCONCENTRATOR
ACTIVATE PPP RXPKT

SET BOOTP MAXHOPS
ENABLE/DISABLE DHCP [BOOTP]

8 コマンドリファレンスについて

最新の日本語版コマンドリファレンス「CentreCOM 8948XL コマンドリファレンス 2.7 (J613-M0021-12 Rev.F)」は弊社 Web サイトに掲載されています。

本リリースノートは、上記のコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちのコマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web サイトで最新の情報をご覧ください。

※パーツナンバー「J613-M0021-12 Rev.F」は、コマンドリファレンスの全ページ（左下）に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>

